

現代ベトナム語の類別詞研究

— 類別詞の本質とその意味・用法 —

〈要旨〉

2014年10月23日

一橋大学大学院言語社会研究科

博士課程

LD122003

NGÔ QUANG VINH

現代ベトナム語の類別詞研究

－類別詞の本質とその意味・用法－

〈要旨〉

本論文は、以下のとおり第1部（序章、第1章、第2章、第3章）と第2部（第4章、第5章、第6章、終章）、全8章で構成されている（全204頁）。その論考の最大の目的は、ベトナム語データベース「データVN」の使用により、ベトナム語における類別詞の体系を客観的かつ網羅的に把握し、記述文法の観点から各々の類別詞の意味と用法を明らかにし、最終的にはベトナム語の類別詞の世界を描き切ることである。

ベトナム語は類別詞を多用する類別詞言語 (classifier languages) の一つである。類別詞は名詞を特定化する機能を有する語類のことで、名詞を特定する場合（修飾語句）、或いは、名詞に対して数を指定する場合（数詞が付いた名詞句）に用いられる。つまり、ベトナム語では、名詞を「不定の状態」から「定の状態」にするにあたって、類別詞の添加は必須となる。類別詞については、以前から国内外の研究者によって、さまざまな研究がなされてきたが、長い間、研究者たちの各々の見解やアプローチの仕方が不統一のため、類別詞という名称を巡る問題からその認定基準までさまざまな食い違いがあり、それ故、研究者たちは、自分なりの見解に基づいて類別詞として認定する語の数量を提出してきたが、一定の基準に基づき選定された合理性のある類別詞の詳細一覧リストは存在せず、一つ一つの類別詞の用法を確定することもできない、という問題が残されていた。強いて言えば、これまで行われてきた先行研究のほとんどは、類別詞の品詞（独立した品詞なのか、名詞の下位の語群なのか）、名詞句内の類別詞の役割（句の中心的要素か否か）、類別詞の造語的機能（動詞・形容詞を名詞化する機能、代名詞的な機能）などについて、あくまでも規範文法の観点からの統語的な研究であった。

本研究は、これまでの類別詞に関する先行研究の成果を踏まえつつ、「類別詞＋名詞」の結合にある「類別詞と名詞」の意味的關係に着目する。すなわち、多くの分野をカバーした「データVN」¹を使用し、実際に用いられている「生

¹ 「データVN」は、VNexpress 電子新聞 <http://vnexpress.net/> の 2012 年 6 月、1 か月分の全記事データ、及び随筆・短編小説集の電子版データ <http://vanvn.net/>（2013 年度 Vietnam Writers'

の類別詞の使用」を客観的に観察し、記述文法の立場から類別詞を総合的に論じることとする。この意味において、本研究は先行研究にあったような類別詞の断片的な統語的側面からの研究とは一線を画している。本研究では、ベトナム語に数多く存在する類別詞という文法現象についての見解を問い直し、理論的な枠組み（類別詞の品詞の確定、類別詞の認定基準の設定）を構築した上で、ベトナム語データベース「データ VN」を通して類別詞を抽出し、そして抽出された類別詞を一つ一つ客観的に観察し論じることとする。この点において、本稿は従来にない新しい独創的な研究である。

各章の内容は以下のとおりである。

第 1 部では、類別詞に関する理論的な枠組みの整理を行ない、類別詞の本質を追究するための考察を行なった。

【第 1 章】[先行研究におけるベトナム語の類別詞]

本章では、先行研究の中のベトナム語の類別詞について整理・記述し、その上で、現在まで先行研究には①類別詞を独立した一品詞として認定する見方と②類別詞を名詞に属する一語群と規定する見方、という 2 つの大きな流れがあることを述べた。さらに、それぞれの見方については代表的な研究を取り上げて、分析を加え、整理した。

上記のいずれの見方にしても、どのように名付けるかは別として、研究のアプローチが異なるだけで、そのような語が存在することは両者とも認めており、その上で、本論文では、存在している「そのような語」（ここでは「類別詞」と呼ぶが）の本質について追究し論じ、明らかにすることを目的とすることを述べている。

【第 2 章】[ベトナム語の名詞の中の類別詞の位置とその認定基準]

この章では、ベトナム語の品詞論における類別詞の位置を明らかにするためにまず、名詞の分類についての代表的な考え方と観点を整理・紹介し、類別詞が名詞の下位に分類される語群であるという位置を先行研究の成果を踏まえな

Association ベトナム作家協会の URL に公開されたもの) を使用し、独自に構築したデータベースである。その概要は以下の通りである。

- 総データ量： 約 10,97 Mb
- 電子新聞の総記事本数： 1,650 本
- 随筆・短編小説集の総本数： 35 編
- 総ページ数： 1,600 頁 (A4 サイズ) (内：電子新聞 1,391 頁、短編小説集 209 頁)
- 延べ語数： 1.136.000 語

がら確認し、さらに、この類別詞が「数詞+類別詞+名詞」という構造を取ることができるという意味で「可算名詞」の仲間であることを述べた。また、どのような語を類別詞として認定するかという基準について考察を加えて認定基準を設定する（後続する名詞に着目して類別詞について総合的に論じたことは、これまでどの研究者にも為されて来なかったことで、本研究において初めて行なわれた）。次に、その認定基準に基づいて類別詞の一覧リストを提出するため、類別詞と同属の「可算名詞」の仲間との相違点についても論じた。その結果、本稿では、これまで断片的にしか指摘されてこなかった、ベトナム語における類別詞の全体像を初めて明らかにし、今回設定した合理的な認定基準に基づき、かつ一定のサイズの、多くの分野をカバーしたデータを使用して、合計 248 語の類別詞が確認されたことを述べる。類別詞 248 語の延べの出現回数は 8.111 回であり、類別詞が「データ VN」全体の 0.71%を占めることが確認された。このことは、単純計算すると、「データ VN」1,600 頁内において、1 頁当たり、類別詞が約 5.07 語登場していることになる。

【第 3 章】[ベトナム語の類別詞の特徴]

抽出された 248 語の類別詞の意味と用法を考察する前段階として、類別詞全体の特徴を検討しておくことが必要となる。本章の前半では先行研究の成果を踏まえ、「データ VN」に依拠しつつ、ベトナム語の類別詞の意味的特徴・統語的特徴と類別詞の種類・類別詞の分類について考察・分析を加えて記述した。そして、後半では、比較対照研究の角度から、ベトナム語の類別詞の諸特徴をより明らかにしようとする目的で、同じ類別詞言語の日本語と比較対照を行なった。両言語では、名詞の数量を言語化する際にその類別詞が義務的に用いられるという共通点が指摘された。また、名詞に対し数を指定する数詞を補助する機能、及び、名詞を特定する機能においても共通していること、さらに、名詞を範疇化する機能を有するという特徴、及び、上位範疇の類別詞と下位範疇の類別詞を有するという特徴も共通していることが検討された。

他方で、統語的機能においては、類別詞の語順という点（ベトナム語の場合は、類別詞は基本的に名詞の前に現れるが、日本語の場合は、類別詞は名詞の前にも名詞の後ろにも現れる）で両言語の類別詞は相違点を見せていることも確認された。

第 2 部では、「データ VN」を使用しての考察作業から明らかになった結果に基づいて、①「人間名詞に付される類別詞」、②「動物名詞に付される類別詞」、③「植物名詞に付される類別詞」、④「無生物名詞に付される類別詞」の 4 つに分類された類別詞のグループごとの全体像を述べることで、そして、記述文法の

立場から、類別詞が持つ意味的特徴とその使用範囲を考察することを目的として記述した。

【第4章】[人間名詞に付される類別詞、その意味と用法]

この章では、まず「データ VN」を使用して、分析・考察作業から明らかになった人間名詞に付される類別詞の全体像（出現頻度数、出現上位語など）について述べた。

「人間名詞」には、親族関係を示す名詞や職業を示す名詞など様々な種類があり、それぞれの人間名詞に対し異なった類別詞が使い分けられている。例えば、「*người*」は人間名詞と共起する代表的な類別詞であり、一般の人間名詞に付与される中立的な類別詞である。それ以外に、本研究において、「*thằng*」、「*tám*」、「*gã*」、「*nàng*」、「*con*」など、他の 52 語の類別詞も抽出され、これらの類別詞は対象となった人間名詞の意味的属性に合わせて付与されるものである。53 語の類別詞の延べ出現回数は 2,051 回（全 8,113 回のうちの 25.3%）であり、すなわち、出現回数の面では、人間名詞に付される類別詞は全類別詞の出現回数の 4 分の 1 を占めることになり、類別詞の中で大きな勢力を誇っている。

次に、このグループにある類別詞の特徴とも言える、「上下」、「尊敬 - 軽蔑」、「性別」という 3 つの大きな意味的対立について考察を行ない、この 3 つの意味的対立やそれぞれの人間名詞自体が持っている意味が、どのように類別詞の選定に関与しているのかという点に着目して論じる。そののち、人間を何らかの特徴を共有する集合体として特定する類別詞について論じ、最後に、人間名詞に付される代表的な類別詞としての「*người*」の意味と用法について詳述した。

【第5章】[動植物名詞に付される類別詞、その意味と用法]

この章では、まず「データ VN」を使用して、分析・考察作業から明らかになった動植物名詞に付される類別詞の全体像について述べた。

「動植物名詞」は、「人間名詞」と「無生物名詞」に並んで、様々な種類がある。対象となった動物や植物はどんな種類であっても、一つ同じ範疇のものとして扱われ、一つの類別詞を共有するというのが特徴である。例えば、動物名詞を特定する場合は、動物の種類やサイズなどを問わず、どんな動物に対しても類別詞「*con*」（ex. *một con cá* 一匹の魚、*một con bò* 一頭の牛、*một con gà* 一羽の鶏）が用いられ、同様に、植物名詞を特定する場合は、どんな植物に対しても類別詞「*cây*」（ex. *một cây sấu riêng* 一本のドリアンの木、*một cây dừa* 一本の椰子の木、*một cây dâu tây* 一本のイチゴの木）が用いられる。

考察の結果、動物名詞に付される類別詞は 38 語（出現回数 504 回）が抽出され、植物名詞に付される類別詞は 67 語（出現回数 210 回）が抽出された。

動物名詞に付される 38 語の類別詞の中では、「*con*」が出現回数が最も多く（358

回、全体 504 回の 71.03%)、種々の動物に対し用いられていることが明らかになった。日本語の場合は動物の種類や動物のサイズによって類別詞、「匹」、「羽」、「頭」、「杯」などが使い分けられているが、ベトナム語の場合は、動物の種類や大きさに関わらず、一つの類別詞「*con*」が用いられている。

植物名詞に付される類別詞として 67 語が抽出された。これら 67 語の類別詞の延べ出現回数は 210 回であり、抽出された全 248 語の類別詞 (全 8,111 回) の 2.59% を占めるに過ぎず、出現回数において植物名詞に付される類別詞は、他のグループ (「人間名詞」、「動物名詞」、「無生物名詞」) に付される類別詞を大きく下回っている。植物名詞に付される類別詞の中で、高頻出上位語として挙げられるのは、「*cây*」(25 回、11.9%)、「*quả*」(15 回、7.14%)、「*hạt*」(14 回、6.66%) の 3 語である。「*cây*」は、木の全体を特定する場合に用いられている (ex. *cây tre* 竹の木)。そして、「*quả*」と「*hạt*」は木の部分を特定する場合に用いられている (ex. *quả mít* ジャックフルーツの実、*hạt hướng dương* ヒマワリの種)。

【第 6 章】[無生物名詞に付される類別詞、その意味と用法]

そして、第 6 章では、無生物名詞に付される類別詞の全体像について述べた。無生物名詞とは、有生物 (人間・動物) と植物を除いた、物体を表す物体名詞 (ex. *kim khâu* 縫い針、*thuyền* 船) から非物体を表す自然現象 (ex. *gió* 風、*sóng thần* 津波) や抽象名詞 (ex. *cách mạng* 革命、*văn minh* 文明) などまで、有生性のない幅広いジャンルにわたるものことであるため、それに対応する類別詞が最も発達しているということは今回の研究で確認することができた (206 語)。

出現回数の面では、206 語の類別詞の延べ出現回数は 5,346 回 (全 8,111 回のうちの 65.9%) であり、全類別詞 (248 語) の出現回数の約 3 分の 2 を占めることとなり、ベトナム語の類別詞の中で最も大きな位置を占めていると言える。

また、206 語の類別詞の中では、類別詞「*chiếc*」の出現回数が最も多く (995 回)、グループ全体の出現回数 (5,346 回) の 18.6% を占めている。この結果から、先行研究では、ベトナム語を代表する類別詞の一つとして常に議論・考察の対象として取り上げられてきた「*cái*」(出現頻度数は 257 回、延べ出現回数 8,111 回全体の 3.17%) に代わって「*chiếc*」がベトナム語の無生物名詞と共起する類別詞の代表格である可能性が浮上したことが明らかになった。

【終章】

この最終章では、本研究の独創性と新たな成果について改めて整理し記述している。

本研究の独創性は以下のとおりである。

これまで研究者間で一致した見解がなかった、どの語を類別詞として認定す

るのかという点に関して、本研究では、「数詞/量語＋類別詞＋名詞」という形式に限定し、その限定によって「類別詞の認定基準」の設定を可能としたこと、そして、独自に現代ベトナム語のデータベースを構築し、その確実なデータに基づいて認定基準に合致する類別詞を抽出しようと発想したこと、このことが本研究の独創性である。

また、本研究の成果は以下のとおりである。

本研究の第 1 の成果は、「類別詞の認定基準」を設定することができたこと、データに基づいて類別詞を抽出し類別詞の語数を明らかにしたこと、類別詞の出現頻度数から主要類別詞を確定したこと、ベトナム語の代表格類別詞に関する新たな知見を提出したこと、さらに、類別詞の一覧リストを提示したこと等である。

本研究の第 2 の成果は、従来の先行研究の類別詞の統語的側面からの研究成果を踏まえつつ、現代ベトナム語の一定のサイズの客観的な「データ VN」に基づき、記述文法の立場から類別詞という語群を追究しベトナム語の類別詞の世界を網羅的に記述したことである。

本研究の第 3 の成果は、ベトナム語の類別詞に関する多くの重要な新たな知見が獲得されたことである。それらは、類別詞の語数、類別詞の出現頻度数、主要類別詞の選定、ベトナム語の代表格類別詞に関する議論等である。

(以上)